



東京女子医科大学学術リポジトリ
<https://twinkle.repo.nii.ac.jp>

献腎ドナーにおける移植前クレアチニンによる評価 と移植後腎機能への影響

著者名	久都内 慶子
発行年	2020-11-20
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032831

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 3093 号	氏 名	久都内 慶子
審 査 委 員 会	主 査 教 授	長坂 安子	
<p>論文審査の要旨</p> <p>腎移植手術において、献腎ドナーの術前血清クレアチニン (sCr) はレシピエントの術後腎機能の指標であることが知られているが、測定タイミングについては文献上明らかでない。方法：東京女子医科大学で 1995-2015 年の間に腎移植をおこなった患者 157 名のドナーの入院時 sCrmin と臓器摘出前 final sCr を抽出し、レシピエントの術後 sCr への影響を検討した。結果：sCrmin>1 群の sCr は術後 5 年までの間有意に高値で推移し ($p<0.001$ vs. sCrmin≤ 1)、final sCr≤ 1 を用いた場合は $1<\text{final sCr}\leq 3$, $3<\text{final sCr}\leq 5$, $5<\text{final sCr}$ との間に差を認め (それぞれ $p=0.029$, $p<0.001$, $P=0.005$)、それ以外の群間では有意差を認めなかった。考察：ドナーの入院時の最小 sCr (Crmin) がドナーの本来の腎機能自体をより強く反映し、他方 final sCr は死戦期における状態からの影響が考えられた。結論：これまで移植前のドナー腎機能の評価するにあたり、摘出直前の final Cr が使われてきたが、移植後の腎機能をより反映するのは final sCr よりもドナー入院時の sCrmin である可能性が示唆された。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学会雑誌に公表)【学校教育法学位規則第 8 条】</p>			